

夜間救護所に救急車が何度も来るので、どうしたのかと尋ねると、エコノミークラス症候群で運ばれる人が増えています、と報告を受けました。災害関連死として、エコノミークラス症候群によって亡くなった方も多くいて、せっかく地震から助かった命を守りたいと思い、薬剤師同士で話し合いエコノミークラス症候群対策に携わりました。

医療チームと連携して、医師からレクチャーを受けて、医師作成のアセスメントシートをもとに避難所周辺の駐車場で車中避難している方に声をかけてまわりました。この声かけのおかげで、数人の避難者の方を医療につなげることができました。

また、エコノミークラス症候群の予防で弾性ストッキングを配布することが過去の災害時にもありましたが、うっ血性心不全の方や足首のサイズが合わない方など、弾性ストッキング禁忌の方がいます。なので、ただ配布するのは止めました。弾性ストッキングを配布していますと言って避難所を回って、受け取りに来た人にすぐに配布するのではなく、ストッキングを希望する理由を聞きました。血栓の危険性などを伝え、救護所で診察を受けて弾性ストッキングを使用すべきかの判断を医師にしてもらい、看護師さんからはき方を教えてもらって配布するようにしました。

さらに、エコノミークラス症候群になる原因の一つとして、避難所の仮設トイレが汚くて、トイレに行くことが嫌で水分を取るのを控えることが挙げられます。そこで、施設の方やボランティアの方と協力してトイレ掃除を行いました。

その時、とあるボランティアのグループからこんな声を聞きました。「私たちの活動はトイレ掃除？災害ボランティアでトイレ掃除をしてきただけなんて帰ってから家族や職場に言うのはちょっと……」

その言葉を聞いた私はトイレ掃除の目的が伝わっていないことに愕然として、思わずその方たちにこう声をかけました。「あなた方のおかげで、エコノミークラス症候群や熱中症などの災害関連死が減っています。トイレが汚かった頃は、みんな行くことを控えたり、水分を取らないようにしたりして、命を危険にさらしていたんです」

それを聞いたボランティアの方は「私たちの活動が命を助けているんだって！この避難所のトイレが1番きれいだって言わせよう！」と言って、掃除してくれました。それ以降トイレ掃除のボランティアの方々に薬剤師から声掛けを行うようにしました。トイレ掃除という手段の説明だけではなく、命を助けるという目的も説明し、理解してもらうことが大切だと

思いました。

——多くの活躍をしてこられた大森さんが学生に伝えたいことはありませんか。

薬剤師の職能は、まだまだ一般の方々や他の職種に知られていないことがたくさんあります。薬学生や薬剤師になった人でさえ、その魅力に気づいていない場合も多いです。災害時の活動もご紹介したことが全てではありませんし、私のお伝えした事例が他の地域でそのまま実践できるとは限りません。地域ごとにできる、その人それぞれの長所を生かすような、薬剤師の職能や魅力を切り拓いていってほしいです。



災害現場で活動する大森さん

取材後記 (高井薫子)

1年生の私は、まだ基礎的な分野しか学んでいないのですが、勉強をしていて「薬剤師になってからこの知識使うの？」と思うことがあります。今回取材をして、薬剤師が生きるのには薬のことだけではなく、低学年からの知識も含めて色々な知識が生きてくることをとても感じました。私が感じた、全ての知識がちゃんと生きるよということを、記事を読んだ薬学生の皆さんに受け取っていただけたらと思います。

考える習慣



メディセレスクール 社長 児島 恵美子

こんにちは。メディセレのしゃっちゃん児島恵美子です。アニメ「鬼滅の刃」が評判ですが、私も観ています。なんなら映画館にも行きました。作品の魅力的な登場人物が発する言葉が、皆さんの心に刺さっているように思いますが、私が作品全体のメッセージとして受け止めたのは、主役の炭治郎君が窮地に陥った時、必ず自分自身に「考える！」と言うことです。薬剤師国家試験でも「考えさせる問題」がキーワードになっています。

国試予備校の現場から

最近、「多様化」という言葉が良く使われています。一人ひとり違ってよいという個性を受け入れた社会は素晴らしいです。それゆえに対応も一律ではなく、その人に合わせる必要があります。皆さんが薬剤師になった時、患者さん対応も一律ではなく、一人ひとりに合わせてほしいということです。知識をその人に合わせて使うスキルが求められます。ここで炭治郎君のように「考える」が出てくると思っています。

そもそも「考える」とは、知識や経験などに基づいて筋道を立てて頭を働かせること、工夫すること、あれこれと思いをめぐらすことです。言われた

ことをするのではない。マニュアル通りにすることでもない。結構難しく、訓練が必要なことです。だからこそ、早い時期から考える習慣を身につけてほしいと思います。

「なにをすればよいですか？」と聞くのではなく、「なにをすべきか？」と他力を自力に変化させてほしいです。4年生のCBT前、6年生の国試前に「やるのがいっぱいだ！」と必ず焦ります。だからこそ今のうちに何をしておくべきかを考える習慣が大切です。これは皆さんの勉強に役立つだけでなく、人としても成長でき、薬剤師として活躍するためのスキルにもなるからです。



私達は地域の健康情報発信拠点としてあらゆる事業に挑戦しています。

健康に関する情報など 各種情報を随時発信しています!



店舗特設ページ



関西薬局 KANSAI PHARMACY 大阪府・和歌山県にて12店舗を展開! 見学、お問合せはHPより随時受付しています。



共和メディカルグループ 本社：大阪府東大阪市若江西新町 1-7-38 TEL：06-6224-6224 HP：https://kyowa-gr.jp/